

Greenthumb

花あわせ心あわせ物語

グリーンマネジメントプロジェクト
/次世代に伝える「自然の恵みの大切さ」
子ども達とお米づくりを楽しむ…2

心のビタミン◎伊藤久美子…3

グリーンサムを楽しむ

花あわせ心あわせ物語
「明るく元気が暮らし方、生き方」…4

パネリスト/藤井けい子氏・長雄昭子氏

グリーンサムガーデン・リポート2005……8

TOPICS ……………10

- ・グリーンサムインタビュー/荒川弘子・鴨田 進
- ・自然再生プロジェクト/ホテルの自然生息
- ・むつみ造園関東営業所紹介
- ・自然防災シンポジウム

MUTSUMI COLLECTION

秋田の郷土種 ……………12

2005年
初冬号
Vol.7

人と社会にやさしい環境づくりが 私たちのテーマです。



“お米ができるまで”を体験
自然の恵みに感謝の心を…

見事な秋晴れに恵まれ、気持ちの良い日となった9月のある日、グリーンサムガーデンにて稲刈りが行われました。この稲は、グリーンマネジメントの一環として、今年の春に旭川幼稚園の年長クラス「星組」と「月組」さんが田植えをして育ててきたもの。植えたお米は赤米という古代米です。

園児達には、田植えから収穫までの「お米ができるまで」を学び、貴重な体験をもらう事が出来ました。子供達はもちろん、保護者の方も田植え、稲刈りはほとんど初体験。お米の大切さや自然の恵みを実感できたプロジェクトになりました。



春に行った田植え体験。これがお米になるの?と不思議そうに、田植えをしていました。お米ができるまで楽しみですね!



子供達が刈り取った稲は「はさがけ」にするため、稲で結んでおきます。この作業もけっこうむずかしい!



秋のお米の収穫です。お米の先生は事務局の三浦さん。



最初は「カマ」が恐かった子も先生のアドバイスでコツをつかんで…。最後はひとりでできるようになりました!



稲刈りも後半になると、手付きもだんだん上手くなって、中には大人顔負けのスピードで稲を刈る子供が!



稲刈りが終わったら
グリーンサムガーデンで
遊ぼう!

帽子をかぶり、スモックを着て、長靴をはき準備万端の園児達。はじめに「お米の先生(三浦さん)からカマの使い方や稲刈りのコツ、稲を天日干しにする「はさがけ」の仕方を習い、いざ稲刈りスタート!ぎこちない手付きながらも上手に稲を刈る事ができました。稲刈りが終わると同時に、グリーンサムガーデンで元氣いっぱい走り回りました。

お米は次の機会に、もちつき大会でいただく事に。とっても楽しみですね!



刈り取った稲は、天日干しにします。おいしいお米になりますように。



いろいろな植物や小川にいる虫を観察したり、元氣いっぱい遊んでいる子供達。赤とんぼをつかまえようと、一生懸命走り回る子供もいっぱい!楽しい自由時間になりました。

土とふれあい、自分と向き合おう、 陶芸の奥深い楽しみ方

潟上市 陶芸工房「華宵」 伊藤久美子



↑ 工場の奥にある小さな建物の中には窯が、うまく出来るようにと願って焼き、そして開けた時には感動の出会い！



↑ 工房にはいつも生徒さんでいっぱい。和やかな雰囲気で作業が続く。壁側の棚には材料や作品がズラリと並ぶ。



「陶芸をはじめたばかりだという生徒さんに丁寧に指導。この生徒さんはご主人のための「湯のみ」を制作中！」

↓ 第14回河北工芸展入選作品「白黒変象嵌器」土物のよい味が出たと批評された。



スラリとした立ち姿で工房をキビキビ動き回る伊藤久美子さんは、自宅の敷地内で陶芸工房「華宵」を主宰する陶芸家だ。工房を開いて4年、今では50名以上の生徒さんをかかえ、午前・午後・夜と毎日3回、5〜6名ずつの生徒さんに陶芸の楽しさを教えている。

思い思いの作品をつくる生徒さんからは次々に質問が飛ぶ。丁寧に、的確に、そしてあたたかい笑顔で優しくアドバイスしている伊藤さん。生徒さんの中には、陶芸はもちろん、教室が終わった後のコーヒータイムがとつても楽しいと言っ方も。

「生徒さんは普段忙しくしている方が多いので、陶芸をしている間はそれに没頭して、自分の時間を楽しんでほしいと思っています。」

陶芸を楽しむ自分だけの時間……。確かに贅沢な時間の使い方だ。

陶芸の楽しさはたくさんあると言う伊藤さん。何を作るか考える時、作品づくりをしている時、焼き上がって窯から出した時、そしてそれを使う時。特に窯から出した時は、思いがけない色に仕上がっていたり、作品と2度目の出会いに感動すると言う。

「うまくいく時はかりじやなく、失敗しちゃう時もありますけどね(笑)」

今年10月、仙台で開催された河北工芸展で伊藤さんの作品が入選した。河北工芸展は、酒井田柿右衛門氏を審査員に迎える東北最大級の工芸展。伊藤さんの娘さんが出来上がったばかりの作品を見て出品をすすめ、見事に入選となった。「娘のおかげ」と伊藤さんは微笑む。

自宅には以前の受賞作品がズラリと並ぶ。すばらしい作品の数々の中に、ちよつと作風が違うものがあり、一番大切そつに飾られていた。

「実はこれ、はじめての作品なんです。なんか手放せなくてね。」と、そつと教えてくれた。

最初は趣味の範囲だった陶芸に魅せられて20年、今ではたくさん生徒さんに囲まれ、陶芸が生活の一部になっている伊藤さん。その朗らかな人柄と陶芸への想い、そして洗練された才能。次の展示会を待ち望むファンも少なくないだろう。



陶芸工房「華宵」
潟上市飯田川和田妹川字妹川94
TEL 018-877-2283

■伊藤さんはグリーンサム運営委員としても活躍しています。

2005 6.11 シンポジウム「明るく元気な暮らし方、生き方」
パネリスト 藤井けい子氏・長雄 昭子氏



花あわせ心あわせ物語という名前には、花を愛する人々が、花を通して出会い、花について語らいながら、心をあわせる事ができたら…という願いが込められています。このグリーンサムガーデンで春と秋、年2回開催している、楽しいイベントです。ぜひ、花や緑を楽しみながらたくさんの人と出会い、心を合わせてみてください。きっと新しい自分、そして新しい仲間めぐり合う事ができるはず。次回もたくさんのご参加をお待ちしております！

グリーンサムを楽しむ
花あわせ心あわせ物語
'05.6/11(土)
むつみグリーンサムガーデン
17:00~20:00
参加費 2,000円

楽しさがやがて美味しくなる
グリーンサムのとき

シンポジウム 17:00~18:00
どなたでも参加可能な秋田がここにはある
秋田県民会館
藤井 けい子氏
長雄 昭子氏

マンドリンコンサート
秋田県民会館
秋田県民会館

入場無料
開演時間 10:00~17:00
■BIOな写真展
■旬のはな市

主催 秋田グリーンサム倶楽部
秋田県天字千種町200 TEL018-819-3666

花あわせ心あわせ物語

長く続いた雨が突然青空に変わった日、グリーンサムガーデンにて「花あわせ心あわせ物語」が開催されました。お二人のテンポの良いお話が楽しかったシンポジウムのほか、美しい音色のマンドリンコンサートや立食パーティー、心にしみる民謡の演奏など、様々な催しが行われました。梅雨の台間のお天気と楽しい会話に、心も身体も癒されたイベントになりました。

佐々木吉和(以下佐々木)：皆さんこんにちは。最近秋田は元気がないと言われています。私はこの10年、企業活動を通して、市民とのコラボレーションを楽しんで来ました。私達のグリーンサム倶楽部活動は、花と緑の暮らしを楽しみ、できれば地域社会をより美しく、絆を強くし、大きく日本を、そして地球の環境まで考えた、地域連携のプラットフォーム造りに取り組んでおります。今日は、西木村で民宿を営む藤井さんと、押し花をベースに活動されてご自分のご商売もきっちりこなしている長雄さん、この二人の女性から元気を分けていただくごと、このシンポジウムを開催いたしました。早速お二人からお話を聞こうと思います。

「母さん」のあたたかさを
民宿で感じていただきたい。

藤井けい子(以下藤井)：皆さんこんにちは。西木村から飛んできました！私は西木村の田園地帯で定員5人だけの小さな民宿をやっております。掃除・洗濯・炊事、全部私一人で行っていますが、最初はもうしたらいいのかなと思っていました。でも「母さんのやってる事をそのままやればいいんだ」というところにたどり着きました。今、民宿の母さんをやっているところです。

もう9年になりました。田んぼの中の小さな民宿に年間二百人くらい泊まりたいです。料金も安く、2食付きで六千円なんです。値段段で言っておめんなさい(笑)秋田県にわざわざいらして下さって、ホテルに1泊する値段で2泊泊まっていただけのような値段、もしくは夫婦2人ではなく家族4人で来てくれたらな、という考えで始めたのが今の民宿でした。

それからキャンプが好きなんです、1年に1回、主人と子どもと4人で息抜きをしています。キャンプに行く、特においしいものはないし、特別何にもないんですが、忘れられないほど

にゆっくりできて楽しいんですよ。それを味わっていたら、という目的もありました。

農業体験を始めて、
今年で25年になりました。

もう一つ、昭和56年に東京から子ども達も農業体験に来ました。それが今までもずっと続いて25年になりますが、年間3校か4校来ております。すると子ども達が帰った時、親御さんに、秋田の父さんはこう、母さんはこうと話すそうです。すると実際の親御さんは「ここに15年育てた親がいるのに、たった2日か3日行って何でそう言うんだと、すごく嫉妬するそうです。中には見に来る方もおります。最初は母屋に泊まっていたり、離れを建てたのが今の民宿の「泰山荘」です。別に農業体験という事もうたってませんが、来てゆっくりしていただけたらいいな、というだけで。

うちの主人は大工をやっています。ですから自分の思い通りに建ててみたい、という話をしていたので、建坪12坪、2階も合わせて25坪の建物を建てました。下は囲炉裏を付けて昔風にしてありますけども、上は都会の方が来てもらいたいような感じの、あまり違和感のないような造りにしております。



シンポジウムにもたくさんの方が参加されました。皆さんうなずいたり笑ったり…。お二人のとっても楽しいお話に、あっという間に時間が過ぎました。



藤井けい子 (Keiko Fujii)

農家民宿「泰山荘」経営

1996年 県内第1号農家民宿「泰山荘」オープン

2004年 毎日新聞グリーンツーリズム大賞優秀賞受賞

2004年 毎日農業記録賞優良賞受賞

現在、秋田県女性農業者、西木村グリーンツーリズム研究会会長として活躍中



長雄昭子 (Shouko Nagao)

湯沢市総合振興計画審議会委員

湯沢市文化会館運営委員会委員

秋田押花文化倶楽部 代表及び事務局

コロナネットアトリエSUN 主宰

(株)長雄糸店 専務取締役

お客さんと接することが何よりも私の励みに。

民宿でお客様と接しまして、生の情報を得られるというのが、一番の私達の励みになりますし、また来てくださるのがすごく嬉しいです。だいたいリピーターと口コミだけで8割を越えております。その中でお客様に元気をいただいております。

お客様がいないとトドの昼寝が得意という私の自慢の話ですけども(笑)、トドの昼寝もお客様が来た時のエネルギーを蓄えていると思つて許してちょうだいと(笑)両極端の生活のなかで、楽しく9年過ごして参りました。7月7日ちょうど10年に入ります。

佐々木：どうもありがとうございます。毎日がリゾートの雰囲気ですよ。しっかりと落ち着いていて全然仕掛けもないし、それが恐いほど身に付いているのが凄いなと思います。

老舗に嫁いだ嫁として、一生懸命考えました。

長雄昭子(以下長雄)：こんにちは。湯沢から参りました長雄昭子と申します。私の家は、百八十年続いている糸屋です。糸という糸を全部置いたきたそう。例えばバイオリンの糸、釣糸、毛糸、縫い糸、帯を織る糸…。そういう昔からの糸屋だそう。そこに入った六代目の嫁になります。嫁は非常に辛い立場にあります(笑)私が嫁いだ時にはすでに7人家族でした。そこへ騙されて21歳で嫁になりました。騙されて子供3人おります(笑)

うちの主人が若かりし時には、毛糸が山のよう売れていたそうです。そこで今嫁の代になり、毛糸？売れません。糸？売れません。糸は一つ210円です。その糸を買いに来た時、今では安い衣類がたくさん売っています。こんなもの縫

う暇あるんだは、買ったほうが安いやという世の中です。そういう世の中で、うちは今とん底です。「この中で何とかして元気になんきやな、何かないかな」という事で、嫁として一生懸命考えました。

辛い毎日の中で

『押し花』とめぐりあった。

今、うちのおばあちゃんは90歳です。痴呆に入っています。24時間寝て、24時間起きっぱなしのおばあちゃんを抱えています。そんな中で、「長雄糸店」という糸屋を引っ張っていかなきやならないこの辛さ。そんな中でめぐり合ったのが押し花です。ちょうど10年前です。押し花とめぐり合ったから、平田睦子先生という、押し花の素晴らしい先生とめぐり会い、そしてつみの社長とめぐり会いました。押し花がなければ、こんなところでお話してません。今もなんかいいんだが「つてちょっと下キドキしておりますけども(笑)

元氣になりたいけど、本当に今辛いですよ。ボケたおばあちゃん抱えてるし、借金は山のよう膨らんでるし、うちの社長は湯沢のまちづくりの理事長で、そつちのほうに一生懸命になってるので、お店のほうは私に任せっぱなしです。

でもおばあちゃんはお嬢さんもつた人で、「家の中の事は全部母さんすればいい、店の事は母さんすればいい、子供の事も母さんすればいい」私の時間って何にもなかつたんですけども、押し花を仕事として考えてもらって、腕を振つてこうして出て歩けるようになりました。

押し花は私に元氣をくれる、本当に素晴らしいもの。

押し花は、私にとって本当に素晴らしいものだなと思つています。お花を見てキレイだな、マイナスイオンがでてるな、とか何がα波が出てるな、と元氣をもらつているような状態

す。押し花がなかったら私はここにいなかったと思います。



今回も司会をつとめていただいた山田勇氏。

佐々木：私達のグリーンサム、市民とのコラボレーションも10年が過ぎました。お二人ともちょうど10年になって、少しづついろいろなものが見えてきたのかな。今度はこの先10年、何に元氣いただきながら、何にこだわって、どうしたいかを少しお話いただければ。

長雄：今までは、おばあちゃんから逃げたい、長雄家から逃げたい、たつたそれだけで押し花をがむしやりに続けてきたのかも知れません。押し花は本当に得るものが大きかったです。先生達やいろんな方ともめぐり会える事ができたから、すごく幸せでした。

ちよつと立ち止まつて考える、この先10年のこと

でも最近、少し立ち止まる事をしなければいけない状況になって、初めて立ち止まつてみました。最初、立ち止まる事が非常に恐かったです。立ち止まるって倒れるんじゃないかと思つたら、走り続けなければいけないと思つていましたから。そして初めて後ろを振り返りました。そして大きな穴がポカンポカン空いてたんですよ、自分が歩いてきた道に。これから10年、私はその穴を埋めていこうと思つています。